

POP づくり

□所要時間	自宅での POP づくりには 2 週間程度 授業での POP 合評会は 30~45 分程度
□主なスキル	リーディング、プレゼン力、デザイン力
□形式	各自の活動から教室での発表へ
□概要とねらい	
<p>POP (point of purchase advertising)とは、書店や CD ショップ、雑貨店等で、商品のセールスポイントや使用した感想などを、手書きのコメントやイラストとともにカードに書いて商品のそばに貼り出すタイプの店頭プロモーションです。多読のために読んだ英語の本の中から 1 冊を選び、その本のポップを作成させます。絵が苦手な学習者には、POP づくりは苦痛なのではないかと心配する向きもあるかもしれませんが、絵が苦手なら文字だけでポップを作成してもいいし、シールを使ったり新聞や雑誌、あるいはネット上のフリー画像を切り貼りすることもできます。パワーポイントを使ってもいいでしょう。狙いは、本から得られた言語情報を他者に伝わるような視覚的イメージに変換する活動を通して、その本への理解を深めることにあります。選んだ本のお勧めポイントを、短いキャッチフレーズや引用、イラストなどを使ってハガキサイズのカード 1 枚に表現するには、想像以上にその本をきちんと理解していなければならないことがわかるはずです。</p> <p>さらに、受講者全員が作ったポップの合評会を行うことで、クラスメートのお勧め本、お勧めポイントを知ることができ、読書意欲の向上につながることも可能です。</p> <p>受講者の英語レベルによって、POP をすべて英語で作成させてもよいでしょう。</p>	
□事前準備 (必要な教材、器具など)	
<p>選ぶ本は多読用教材ならなんでもかまいません。はがきサイズ、あるいは A6 サイズのカードを受講者の人数分用意し、配布します。</p>	
□手順	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 上記の狙いを説明した上で、POP 用のカードを配布する。提出日 (合評会の日) の 2~4 週間前がよい。本を読んでから POP をつくるので、期間は長めに取った方がよい。 2. POP には、①キャッチフレーズ、②その本を読みたくくなるようなお勧めコメント、③その本を読みたくくなるような引用の 3 点を必ず含めるよう指示する。その他のコツとして、目をひく絵やイラストの使用、文字フォントの工夫、読んだ人にしか分からない (けれどネタバレはしない) その本の魅力の提示などを盛り込むとよい。可能であれば、模範例を示すとよりわかりやすいだろう。 3. POP 提出日には、作成した POP と題材に選んだ本を持って来るように指示する。 	

4. 本と POP を教室内に展示し、ギャラリータイムを行う。
5. 合評会開始。各自に審査用紙を配布し、①キャッチフレーズ、②コメント、③引用、④デザインの4項目を5点満点で採点させる。
6. 点数の高かった上位3作品に投票させる。付箋を3枚ずつ配布し、各自が選んだ上位3作品に1枚ずつ貼りつける形で投票するとよい。
7. 投票を集計し、クラス内で優秀作品を決定する。
(合評会のやり方は、状況に応じて変更可能。投票形式がそぐわない場合は、単にギャラリータイムを行うだけでもよい。)

【学生の反応】

- 読んだ本をしっかりと理解した上で、よく考えながら POP を作成したので使用した本にも愛着がわいた。また他クラスの人たちが作成した POP もどんなのがあるのかなと興味があった。
- すばらしい POP がたくさんあって、読みたい本がたくさんありました。本にも興味が出てよかったです。
- とても楽しいと思った。POP にまとめることで読んだ内容を頭の中でまとめることもできた。
- 去年に続いて POP をやりましたが、去年よりクオリティが高くてびっくりしました。去年は色えんぴつだけでしたが、今年は1作だけ水彩を使用しました。とても楽しかったです。
- POP を作る事でその本への理解興味が増すと思いました。
- 今回 POP をやってみて本を読みたいと思ったし読んでみて面白さに気づけました。
- みんなで POP を見せ合った時、こういう見せ方があるんだとかこういう言葉を使えばいいんだと多くの発見がありました。クオリティの高い人の POP を見るのは楽しかったし、尊敬もしたりしてとても面白かったです。
- 自分の知らない本がたくさんあり読みたくなるような絵を描いている本がたくさんあり興味をもった本がある。絵を描くことはたのしいし相手の技術を盗むということもできるので有益でした。
- ポップを作ることは本の中身をしっかりと読んで理解しないとかけないから本の中身がより記憶に残る。とことんやろうと思うと時間がいくらあっても足りない、シンプルのほうが良いのかいろいろ描き足したほうがいいのかやっているとよくわからなくなってくる。
- キャッチフレーズを考えたり、引用する部分を探したりしたので、より深く本を読めたと思う。同じ本でも引用している所が違うし、ポップの絵に皆の個性が表れていたのを見ていて楽しかった。

- 選書した後、何を書けばいいか迷いましたが、ちょっと工夫してみました。大好きな本を POP として紹介することができたので自分もちゃんと楽しめたし、満足できました。
- 本を読む楽しさもあったが絵を描く楽しさが一番大きかった。
- はじめて POP 作成を行ったのですが、周りのみんなの表現の仕方がとても高くて驚きました。本を読みたいと思ってもらうのはとても大変だなととても感じました。

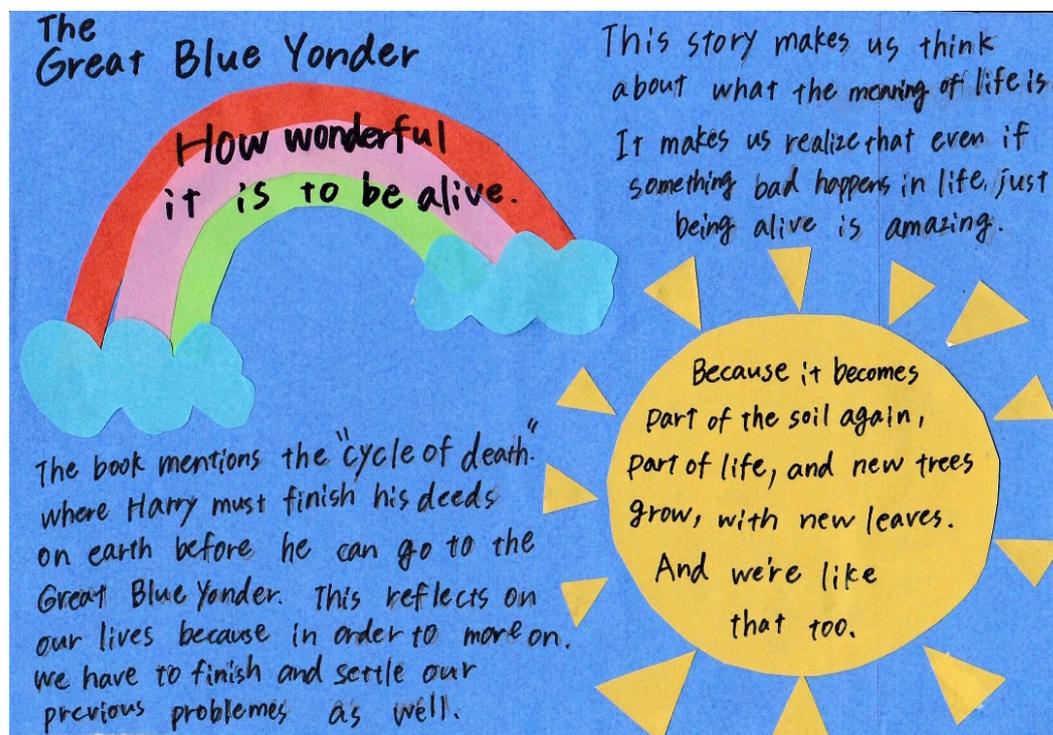
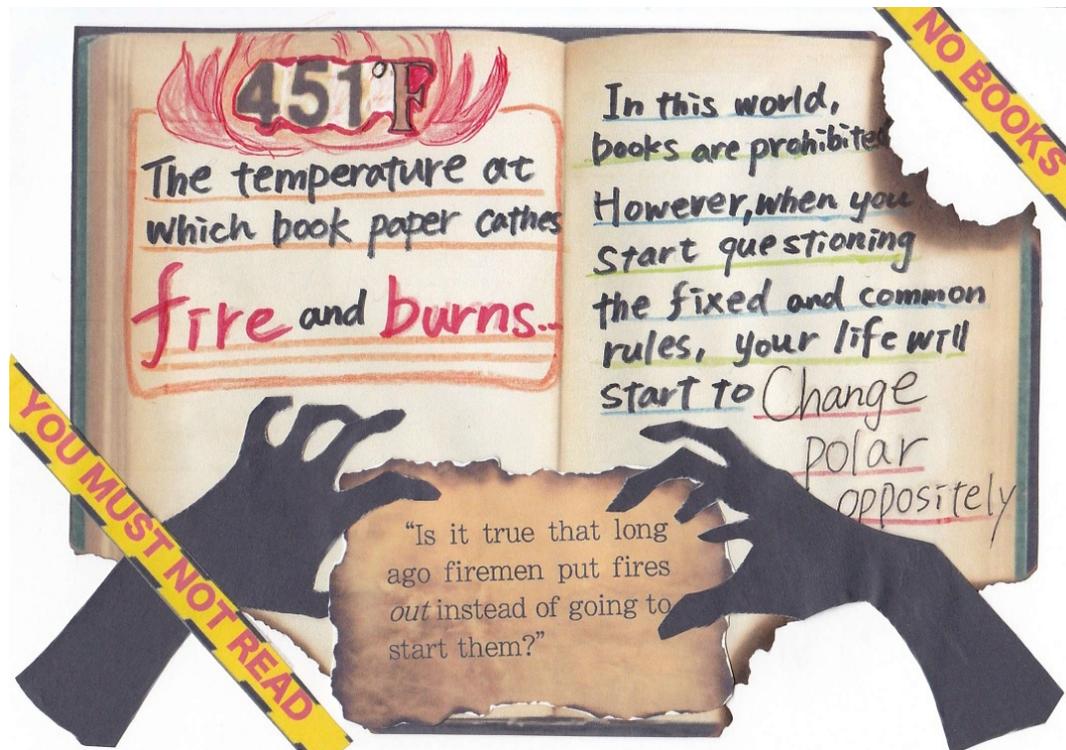
【応用・解説】

活用例

- 著者の勤務校では、大学図書館の主催で毎年 10 月から 12 月にかけてポップコンテストを実施しています。洋書部門と和書部門を設け、教員による予備審査で選出された 10~20 作品を図書館に展示、その後学生、教職員が投票して金銀銅賞を決めます。金銀銅賞受賞者は学長より表彰があります。本を読まなくなっている大学生の読書活性化に一役買うイベントとなっています。実際の様子は、以下の URL をご参照ください。<http://blog.tsurumi-u.ac.jp/library/2019/12/pop-4c1b.html>
- 2020 年度はすべての授業がオンライン授業となったため、オンラインでの POP ギャラリータイムを実施しました。その際に有益だったアプリを以下に紹介します。
 - ◇ Microsoft Office Lens：無料アプリなので、スマートフォンにダウンロードして誰でも簡単に使用できる。スマートフォンで写真を撮ると書類等を PDF 化することができる。作成した POP を提出する際、このアプリで撮影し学内 LMS や以下に紹介する Padlet に投稿させた。
 - ◇ Padlet：無料ツールで誰でも簡単に使用できる。PDF、あるいは JPEG ファイルで POP を投稿し、ギャラリーのように POP 作品を並べることができる。投稿者が自分の POP にコメントをつけたり、投稿された POP にクラスメートが投票したり評価したりできるので、オンライン上で POP ギャラリータイムや POP コンテストが可能だ。ちなみに、Padlet にはウォール、キャンバス、ストリーム、ストーリーボード、シェルフ、メッセージ、マップ、タイムラインなど、多様な仕様が用意されているので、学生が作成したレポートや作品をクラス全体で共有したいときには大変便利である。リンクや動画、音声を投稿することも可能である。詳しい使用方法については、「Padlet の使い方」で検索すると説明動画が多数見つかるので、そちらを参照するのがお勧めである。

【その他備考】

POP 作品の例



(文責：深谷素子)